

国際交流基金助成事業報告書

大阪薬科大学 薬学部 2年次生 野田実希

1. はじめに

平成27年3月1日～29日の4週間、カナダのトロントにおいて短期語学留学を行いました。ホームステイをしながら語学学校に通い、語学力の向上と様々な貴重な経験を積むために、アクティビティーやツアーなどに参加しました。その内容について、ここに報告いたします。

2. ホームステイ

私のホームステイ先の祖父母はイタリア人で、他に3人のブラジル人と1人のニュージーランド人のルームメイトがいました。カナディアンではなかったことに最初は少しがっかりしましたが、カナダにいながらもイタリア、ニュージーランド、ブラジルの文化を学べたことに今では大いに感謝しています。



晩御飯を食べる時、私を含め4つの国籍の人が集まるので多様な価値観があることに改めて気づかされました。宗教や食、文化やそれぞれの家族について。同じ人でも国によってコミュニケーションの方法も様々でした。

また、驚いたことにイタリア人の食文化は極端で、毎日トマトソースのパスタを食べ野菜はほとんど食べませんでした。和食が世界無形文化遺産へ登録された理由が少しわかった気がします。

3. 語学学校

今回の短期留学で通った学校は、Quest Language Studies という学校です。1クラスの人数は4人～10人と少人数で、先生はきちんと各人に的確にアドバイスをくれます。また、毎週金曜日はディベートやプレゼンテーションの日と決められており、月曜～木曜日までの授業中に、少しずつ同じグループの人と相談しながら決められたテ

テーマについて語り合いディベートとプレゼンテーションの準備をします。日本人は自分の意見をあまり主張せず、相手と同調することばかり考えていますが、他の国籍の人と語り合っているうちに、きちんとテーマについて考察し自分の意見を持ち、主張することの大切さを学びました。

さらに、この学校は小規模であるので自分のクラスだけでなく、他の上のレベルのクラスの人と交流する機会がたくさんあり、語学力向上に大変役に立ちました。

午前中はスピーキングの授業、午後の2時間は自分の苦手な分野を選択し学び、最後の1時間は1クラス5人ほどで、毎日自分達の学びたい分野を先生に提案し勉強するというものでした。私は発音が苦手なので、午後からの授業の多くは発音の授業を選択し受講していました。



4. アクティビティー



学校には毎日アクティビティーがあり、トロントへ語学を学ぶだけではなく、見聞を深めるためにも多くのアクティビティーに参加しました。ナイアガラの滝、トロント大学、博物館。その中でも、現在大学生である私にとって、とても興味深かったのはトロント大学です。

【トロント大学】

地震の少ないトロントでは近代的な建物も、もちろん素晴らしいですが、昔からある荘厳とした校舎には圧倒されました。

初日に学校周辺を案内してもらったツアーがあり、Shoppers Drug Mart というドラッグストアを紹介してもらいました。その際カナダの医療事情についての説明もあり、日



本との違いにおどろくばかりでした。例えば、【トロント大学食堂】カナダは国民皆保険制度を採用しているため基本的な医療は全て無料ですが、他に保険に入っていない人は薬を購入する際、全額負担となってしまいます。歯医者も保険がきかず全額負担だそうです。さらに、病院に行っても待ち時間がすごく長いことが問題だとも話されていました。

5. まとめ

1ヶ月という短い留学でしたが、今までとは比べものにならないくらい、意見を述べることや考察することへの積極性が自分でも驚くほど高まったことを実感します。またどれだけ狭い世界の中でしか物事を見ていなかったのかがよくわかりました。

わざわざ母国をでて、カナダの語学学校で学ぼうとしている人はやはり明確な目標を持ち、それに対して自分のできる最大限の努力をしていました。そういう人達の話聞くことで大きな刺激を受け、私は語学の向上だけでなく、改めて薬という分野を極めていきたいという強い意志を持ち帰国しました。

このような、自分自身を高めてくれるような経験を得られたのも、国際交流基金の助成を受けることができたからです。ありがとうございました。